

令和7年度 小平市立小平第三中学校 授業改善推進プラン

英語 1年生

1 日常の学習状況について

全体では意欲的に授業に取り組んでいる生徒が多い。ただし、英語学習に自信を持っていない生徒も多いため、自己有用感を高める協働的な活動を日々多く取り入れ、積極的に言語活動に取り組ませている。提出物の提出状況は、全員が出せてはいないため、提出物の取り組み方に課題が残る。

2 学力調査等（定期考査）の結果の教科別・観点別分析

単語テスト等、知識を問う問題は比較的成績が良かったが、思考・判断・表現力を問う長文問題については、正解率が低い。基本的な知識を活用した上で、英語で文章を読み取り、英語で記述する力を向上させていくことが課題である。

3 学力に関する状況

- (1) 思考・判断・表現に関する長文問題は、授業時の練習不足のため、課題がみられる。
- (2) 知識・技能を身につける力はあるため、それらを活用していく力を言語活動や演習を通じて伸ばしていく必要がある。
- (3) 英語で自分が調べたことを発表することに自信が持てず、不安がある生徒が少々見られる。「話せた」という成功体験を積ませていくことで、人前で英語を話す自信をつけさせていく。

4 教科の指導上の課題（授業評価アンケートより）◎そう思う ○ややそう思う

- ①授業のねらいや流れがはっきりしていて見通しがもてる。 (◎61.2% ○33.1%) ◎+○=94.3%
- ②授業規律が守られ、授業に集中できる環境が整っている。 (◎72.3% ○24.8%) ◎+○=97.1%
- ③授業内容の指示、説明が分かりやすい。 (◎58.2% ○36.2%) ◎+○=94.4%
- ④意欲的に取り組めるような授業になっている。 (◎56.1% ○38.8%) ◎+○=94.9%
- ⑤板書やプリント、ICT 機器の活用等が工夫され、理解が深まる。(◎56.7% ○36.9%) ◎+○=93.6%

- (1) ①の結果から、すべての生徒にとって授業のねらいが伝わっていない。
- (2) ③の結果から、すべての生徒にとって授業の内容の指示、説明がはっきりと伝わっていない。
- (3) ⑤の結果から、ICT 機器を効果的に活用していると実感している生徒が少ないことがわかる。

5 改善の計画

- (1) 授業のねらいや指導手順を、黒板で提示することで、本時の目標が分かるように工夫する。
- (2) 協働的な活動を多く取り入れ、学んだことを活用するための言語活動を行っていく。
- (3) タブレットを授業内で活用し、生徒用デジタル教科書を家庭学習でも使用させることや、ロイロノートやスタディサプリ、kahoot!や Padlet 等のアプリを授業時に活用していく。

6 プランの評価方法

- (1) 授業の取り組み状況を生徒自身がフィードバックしていくことで学習を振り返らせる。
- (2) 定期考査や確認テストなどの結果を比較分析する。
- (3) Google Forms などを活用し、知識の定着度をはかる。

令和7年度 小平第三中学校 授業改善推進プラン

英語科 2年生

1 日常の学習状況について

- (1) 多くの生徒が意欲的に授業に取り組んでいる。コミュニケーション活動やパフォーマンステストにも積極性がみられる。
- (2) 文法の学習プリントや、ノート作成、家庭学習用ワークブック等も多くの生徒が取り組んでいる。一方、授業に集中できない、家庭での学習ができていない生徒もみられる。

2 定期考査を踏まえて

- (1) 基本的な単語や短い文を読んで理解することは、多くの生徒ができている。
- (2) 単語や文を自分で書くことについては、課題がみられる生徒が多い。
- (3) 長文問題の読解については、これから力を伸ばしていく必要がある。

3 学力に関する状況

- (1) 知識・技能
 - ・基本的な単語や短い文を読んだり、聞き取ったりすることは、多くの生徒ができている。
 - ・単語や文を正しく書くことについては、まだ力が不足している。
- (2) 思考・判断・表現
 - ・あらかじめ与えられた内容についての発表は多くの生徒ができている。
 - ・長文読解力や即興的なやりとりができる力を今後伸ばしていく必要がある。

4 教科の課題

- (1) 学習面
 - ・多くの生徒がまじめに授業に取り組んでいるが、苦手な生徒へのサポートが必要である。
 - ・現在学習していることについては理解しようとするが、以前学習した内容が定着していないため、つまづいてしまうことが多い。
- (2) 指導面
 - ・4技能の力をバランスよく伸ばすための授業を確立する。
 - ・タブレットを授業で活用する。

令和7年度 小平第三中学校 授業改善推進プラン

英語科 3年生

1 日常の学習状況について

- (1) 多くの生徒が意欲的に授業に取り組んでいる。コミュニケーション活動やパフォーマンステストにも積極性がみられる。
- (2) 授業を集中して受け、ノート、ワークブック等も多くの生徒が取り組めている。
一方、授業に集中できない、家庭での学習ができていない生徒も一部みられる。

2 定期考査を踏まえて

- (1) 基本的な単語や短い文を読んで理解することは、多くの生徒ができている。
- (2) 文を自分で書くことについては、課題がみられる生徒が多い。
- (3) 長文問題の読解については、これから力を伸ばしていく必要がある。

3 学力に関する状況

- (1) 知識・技能
 - ・基本的な単語の読み書きや、短い文を読んだり、聞き取ったりすることはできる生徒が多い。
 - ・難しい単語の読み書きや、文を正しく書くことについては、力が不足している生徒が多い。
- (2) 思考・判断・表現
 - ・あらかじめ課題が示された発表ややりとりについては多くの生徒ができている。
 - ・長文読解力や即興的なやりとりができる力を今後伸ばしていく必要がある。

4 教科の課題

- (1) 学習面
 - ・既習事項が定着していないため、新しい内容の理解につまずいてしまう生徒がいる。
 - ・得意な生徒と不得意な生徒の差が大きくなっている。
- (2) 指導面
 - ・授業で新しい内容を指導するだけでなく、既習事項の復習も行う。
 - ・学力の差に配慮しながら授業を行う必要がある。

5 授業改善の計画

- (1) 4技能の力をバランスよく伸ばすよう、授業を工夫して進める。
- (2) ノートやワーク等を定期的に点検し、授業や家庭学習への積極的な取り組みを促す。
- (3) 英語の力を高めるように、タブレットを効果的に使用させる。

6 計画の評価方法

- (1) 定期考査において、観点別学習状況の評価を行う。
- (2) 小テスト（リスニングテスト・筆記テスト・パフォーマンステスト等）を実施する。
- (3) 授業アンケートを実施する。

5 授業改善の計画

- (1) 少人数授業を実施し、一人一人の学習状況を把握し、個に応じたアドバイスをする。
- (2) ノートやワークを定期的に点検し、授業や家庭学習への積極的な取り組みを促す。
- (3) 英語の力を高めるように、タブレットを効果的に使用させる。

6 計画の評価方法

- (1) 定期考査において、観点別学習状況の評価を行う。
- (2) 小テスト（リスニングテスト・筆記テスト・パフォーマンステスト等）を実施する。
- (3) 授業アンケートを実施する。